

ガーデンふ頭にぎわい創出特別委員会質疑応答要旨

- 1 日時：平成29年3月13日（月） 15時32分～16時50分
- 2 場所：議場
- 3 特別委員会資料説明
- 4 質疑応答要旨

【名古屋港水族館におけるシャチの飼育展示について】

＜田辺委員＞

（質問）アースの所有権移転を前提としたシャチのメインプールでの展示に、鶴川シーワールドのどのような理解が得られたのか。

（答弁＝担当課長（関連事業担当））

アースとリンをメインプールで展示することに伴って、ステラがメインプールに出してしまう事については了解を得ていると考えている。

（質問）シャチの公開トレーニングと言ったり、展示と言われたりするが、アースをメインプールに出すことで何をやるようとしているのか。

（答弁＝担当課長（関連事業担当））

メインプールでの公開内容については、スプラッシュジャンプや連続ジャンプ、ランディング等、現在展示プールで行われている公開トレーニングを基本に考えている。

（質問）シャチをメインプールに出して、そこでショーは行うのか。

（答弁＝担当課長（関連事業担当））

基本はシャチの公開トレーニングだが、その後の展示方法については世界での展示のあり方を見極めつつ検討していきたい。

（質問）ショーはしないと以前言っていたではないか。シャチをメインプールには出すが、それはあくまで展示であって、ショーのように音楽を流して皆で盛り上がるようなものではないということをはっきり言っていたきたい。

（答弁＝担当課長（関連事業担当））

メインプールでの公開内容については、シャチの公開トレーニングを実施し、本来の運動能力によるジャンプなどを見ていただくのが今の考えである。

（質問）公開トレーニングという言葉で濁すのではなく、こういう目的で我々はシャチを購入し、研究をしながら、市民、県民にこのように展示をしていくのだという事を、議会に対して理解を求めなければいけない。音楽に合わせてジャンプをするようなショーはしないとこの事を、購入する前にはっきり我々に言ってもらわなければいけないと考えるがどうか。

（答弁＝担当部長（関連事業担当））

メインプールにシャチを出した後の展示内容については、世界での展示のあり方を見極めつつ、検討していく。

（質問）アメリカでシャチの人工授精、交配等の研究を行うことが難しくなっている中で、今後パブリックの水族館である名古屋港水族館がその研究を引き継いでいくという決意を持って、アースを4億8000万円で購入していくという理解でいいのか。

(答弁＝担当課長 (関連事業担当))

種の保存の観点から、雌雄のシャチによる主体的かつ継続的な繁殖研究に取り組んでいきたいと思っている。また現在8歳のアースも数年後に性成熟過程を迎えるため、ホルモン濃度や行動の変化等の観察、精液の採集方法等の繁殖生理を中心とした研究をこれから実施していきたい。

(意見) 鴨川シーワールドや、中国のチャイムロング海洋王国にも窓口を持っている名古屋港水族館が担う役割は大きい。パブリックの水族館としてその使命を果たして欲しい。加えて公開トレーニングや展示についてははっきりしていただきたい。

〈高橋委員〉

(質問) シャチの購入目的として、メインプールでの展示について鴨川シーワールドの理解が得られたとあったが、これはメインプールでの公開をしたいがために購入するのか、それとも鴨川シーワールドのお墨付きが得られたから購入するのか、どちらなのか。

(答弁＝担当課長 (関連事業担当))

名古屋港水族館の飼育員の技術が向上したことにより所有権を移転したいという目的と、種の保存の観点という2つの購入目的がある。

(質問) 今後進めていく公開トレーニングについても、鴨川シーワールドの助言は得られるのか。

(答弁＝担当課長 (関連事業担当))

所有権が移転するまでは鴨川シーワールドの指導を受けながらトレーニングを進めていき、移転後も情報の共有を図りつつ、展示内容について検討していきたい。

(質問) シャチの体調等についても、鴨川シーワールドと情報共有を図っていくのか。

(答弁＝担当課長 (関連事業担当))

そのように考えている。

(質問) メインプールでは現在イルカのパフォーマンスが行われているが、シャチをメインプールに出すことによるリスク、影響等はどのようなものが考えられるか。

(答弁＝担当課長 (関連事業担当))

イルカパフォーマンスとシャチのメインプールでのトレーニングについては交代で行う予定であり、生物の状況によってはメインプールだけでなく現在のシャチ展示プールを有効に使いながら、来館者にシャチをご覧いただくと同時に、これまでと同様にイルカパフォーマンスも楽しんでいただけるように工夫していく。

(質問) リスクはないと考えればいいのか。

(答弁＝担当課長 (関連事業担当))

飼育員の技量は上がったが、動物なのでコントロールが十分にできないことが想定される。そのような場合でも状況に応じたパフォーマンスを提供していきたい。

(質問) 生物をコントロールできないことなども含め、来館者が期待しているパフォーマンスを見せることができないかもしれないというリスクを受け入れた上での購入の検討という理解でいいか。

(答弁＝担当課長 (関連事業担当))

その通りである。

(意見) 日程ありきでトレーニングを進めるのではなく、鴨川シーワールドはじめ大学の研究者も含め、状況を見極めた上で進めていく必要がある。

〈ばば委員〉

(質問) シャチの共同繁殖研究における大学等の研究機関は具体的にどこなのか。

(答弁=担当課長 (関連事業担当))

現在学術協定を結んでいる大学として、三重大学大学院生物資源研究科、岐阜大学応用生物学部、京都大学野生動物研究センター、京都大学霊長類研究所、神戸大学農学部がある。

(質問) それらの大学は、海洋哺乳動物の研究に関して権威や力量、経験を持っている研究機関なのか。

(答弁=名古屋港水族館館長)

三重大学については、日本で初めてバンドウイルカの人工繁殖に参加した教授がおり、我々がこれまでシャチの研究をした経緯の中で、一緒になって研究を進めてきた。岐阜大学については、糞便から血液検査の中でホルモンの動態を調査するという研究を進めており、その技術でシャチの繁殖生理に貢献していきたいと考えている。京都大学野生動物研究センターについては、遺伝子関係の研究を、霊長類研究所については視覚認知能力の研究を進めている。神戸大学については、バンドウイルカ等の採精子の保存といった繁殖生理の研究を一緒に進めてきた。

(質問) チャイムロング海洋王国のシャチとアースが交配してできる個体は、自然界に戻すような個体として大丈夫なのか、それとも亜種として人工飼育しかできなくなるのか、その辺の繁殖研究の限界を教えてください。

(答弁=担当課長 (関連事業担当))

飼育下で繁殖させたシャチを自然界に戻すことはしない。また、DNAの違いは種内の多様性の範囲内の違いであり、生物学上は同じシャチであるため、繁殖は可能である。むしろ近親交配を繰り返すことで遺伝的な多様性が失われ、飼育下の繁殖に支障をきたすと考えている。

(質問) DNAは亜種になっていくという状況の中で、名古屋港水族館は研究を進めていくという認識でいいのか。

(答弁=名古屋港水族館館長)

リンやアースといった、血縁関係にある個体の自然交配が否定されているわけではないが、近親交配を繰り返すことも望ましくないと考えているため、シャチを飼育している中国のチャイムロング海洋王国と連携して人工授精、精子の凍結方法を確立していく中で、人工繁殖に取り組んでいきたい。

(意見) これだけの金額を払ってシャチを購入していくことになるため、可能性としてあることないことなどの説明責任を、議員や県民市民に対してしっかり果たしてほしい。シャチの繁殖研究の中でどの道がアースに残されているかという事を、予算時には説明してほしい。

(質問) ステラをリース契約のままメインプールに出す理由とその損益はなにか。

(答弁=担当課長 (関連事業担当))

現契約の他に鴨川シーワールドと名古屋みなと振興財団の間では、「シャチの展示運営及び研究活動に関する覚書」を締結しており、展示内容及び研究成果の発表は双方の協議が必要となっている。協議の結果、鴨川シーワールドからメインプールでの展示については認められないという回答を得ている中、現契約のままメインプールに出すことはできないため、アースの所有権を取得する必要があった。

(質問) アースについてそうならばステラについても同じではないのか。

(答弁=担当課長 (関連事業担当))

メインプールでは、リンとアースを展示して出すのが基本となっている。アース買入の協議の

過程で、群れで行動するシャチの特性から、結果としてステラがメインプールに出してしまう事については鴨川シーワールドの理解を得ている。

(質問) 種々の特性でできることは契約で定めるべきである。ステラに何かあった場合の責任の所在等、細部に渡って契約事項に記した方がいいと思うがどうか。

(答弁=担当課長 (関連事業担当))

ステラの契約の方針の詳細については鋭意鴨川シーワールドと調整中である。

(意見) 契約に関しては慎重に検討することを強く要望する。

《山口委員》

(質問) アースとリンについて、自然繁殖の可能性はあるのかももう一回はっきりと答えてほしい。

(答弁=担当課長 (関連事業担当))

アースとリンは叔母と甥の関係である。外国では遺伝子距離が法的に否定されているわけではなく、自然繁殖が否定されているわけではない。

(質問) 否定されているわけではないが、積極的にそういう繁殖を目指すわけでもないという理解でいいのか。

(答弁=担当課長 (関連事業担当))

その通りである。

(質問) 今後性成熟を迎えるリンとアースについて、展示、飼育するプールを分けるといった判断や将来の方向性は検討しているのか。

(答弁=名古屋港水族館館長)

現在3つあるプールを運用することで、交配のないようにやっていきたい。

(質問) シャチのプールの運用により、イルカのパフォーマンスといった観客の意味ではマイナスのリスクを背負うという事を十分理解した上で決断してほしいと思うがどうか。

(答弁=担当課長 (関連事業担当))

メインプールでのパフォーマンスや研究については、十分に注意しながら今後検討していきたい。

(意見) イルカとシャチにおけるメインプールの運用については、技術的な問題についても間違った判断をしないように。

《佐藤委員》

(質問) シャチの輸送リスクや健康診断等はきめ細やかに確認をしていることは認識しているが、鴨川シーワールドとの何らかのリスクヘッジをするような契約、もしくは交渉をしているのか。

(答弁=担当課長 (関連事業担当))

アースについては 2008 年の鴨川シーワールドの繁殖により誕生した個体であり、健康状態は常に把握されてきた。名古屋港水族館でも毎日体温や動態の検査を行い、月 1 回の血液検査も行っている。そのため、リスクヘッジの設定は現在していない。

(意見) これだけ大きな財源が動くので、そういう事も含めて検討していく必要があると思う。

【ガーデンふ頭再開発基本計画について】

《山口委員》

(質問) ガーデンふ頭の船溜まりはにぎわいの観点からどのように活用しようと考えているのか。また、

滞在時間の延長とは、日帰りの観光をイメージしているのか、それとも宿泊を含めた観光をイメージしているのか。

(答弁＝総合開発課長)

船溜まりは地下鉄から降りて非常に近く、また水族館の導線上にあるため、ウォーターフロントの活用という形で、にぎわいゾーンとして考えていくことを今回の基本計画の方針として定めた。滞在時間については、来港者が水族館を見てそのまま帰ってしまう傾向がある中で、少しでもガーデンふ頭の中で回遊していただいて、残っていただけるような施策を考えていく。

(意見) 船舶が係留されている船溜まりの活用についてはしっかりやってほしい。滞在時間については、名古屋市や愛知県の観光戦略等におけるガーデンふ頭の立ち位置を考えながら、外との連携等、視野を広げた上で検討してほしい。

〈坂野委員〉

(質問) 名古屋港管理組合として再開発の基本的な考え方はあるのかないのか。

(答弁＝総合開発課長)

目指す将来像という形でのにぎわい、くつろぎの2つの観点を本組合の考えとして設定した。

(質問) という事は検討委員会で出てきた意見ではないという感覚でいいのか。

(答弁＝総合開発課長)

本組合の考え方を検討委員会の中で議論をして、現時点の意見を取りまとめたものが今の考え方である。

(質問) ガーデンふ頭だけで見れば確かにそうだが、名古屋港全体の観光で見たら、再開発の考え方が変わってくるのではないのか。

(答弁＝総合開発課長)

金城ふ頭についてはレゴランドなどのにぎわいを中心としたものであるが、ガーデンふ頭についてはにぎわいにプラスしてくつろぎの観点を置くことで、金城ふ頭との差別化を図り、その役割分担を考えていきたい。

(意見) ガーデンふ頭のにぎわいづくりだけに固執して、全体を見失ってしまうような状況にならないよう、名古屋港の遊びの場と仕事場との連携を盛り込んだ計画を作っていくように。